

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
前 回 外 部 評 価 時 の 目 標	26	◇チームで作る介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	◇自己評価 毎月の全体会議にて入居者のアセスメントを作成、カンファレンスを実施。  ◆外部評価 週間の介護記録が一読できる様式を使用しており、日々の実践に効果を発揮しているが、様式上にも記載欄があるケアプランの項目のさらなる活用で、より実践的でより有効性の高いケアプランになるように期待したい。	◇介護記録とケアプランの連動、家族との情報共有について ・介護記録のさらなる活用について 介護記録の入居者インデックスにモニタリングシートを添付（日々の介護記録時に見やすいところにファイリングした。）、担当職員に毎月のサービス内容に対する評価や特記を記入するよう周知。  ・家族との情報共有 ケアプランや面会時の説明だけでは、入居されている家族の状況を知るのには難しいと考えます。今後は毎月の利用明細と共に入所者の状況がわかる資料を添付すると共に、従来通り面会時の状況報告とケアプラン更新時の説明同意を行い、少しでもあさひの里の介護方針、介護状況を知って頂ける努力を継続する。	達成
1	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	◇自己評価 高齢者虐待防止、身体拘束に関わる研修会等に参加し事故に至らないよう努めている。また運営推進会議にて毎回拘束虐待について話し合いを行う。事例を全体会議にて職員と話し合っている。  ◆外部評価 毎月の会議や運営推進会議で拘束や虐待について深く検証されている事に敬意を表したい。今後は開催時の議事録等や拘束等の研修記録について、身体拘束適正化委員会綴りとして一冊に集約・整理し、より拘束や抑制防止となるよう期待したい。	身体拘束適正化委員会の設置、研修会・全体会議等での記録の整理を行なうとともに、入居されている方々への支援のなかであさひの里の介護方針でもある【関わり・声かけ】を大切に「ケアの質」「自宅で暮らしていたような生活の提供」「チームワーク」を元に、入居されている方々が自宅に居るように思っていただけのように、その人らしく過ごせる支援を継続して行く。	3ヶ月
2					
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。